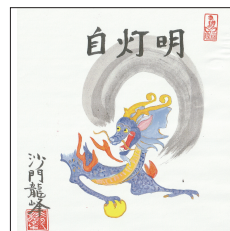




新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

「自灯明」(じとうみょう)

令和六年の新しい年が明けました。檀信徒の皆様には、ご家族お揃いで、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



年頭にあたり、今年は『自灯明』という言葉をお届けします。

人は誰でも、一人で生きていかなくはなりません。家族や友人、恋人がいたとしてもやがては一人になります。周りの人に頼りきっていたら、一人になった時に心細くて生きていられなくなるかもしれないかもしれません。今の世、落ち着かない不安な世相です。世界に目を向ければ、ウクライナとロシア、中東問題等毎日毎日落ち着かない日々です。

翻って、自分の人生も同じです。明るいとときもあるでしょう。不安で暗い時もあるでしょう。暗く足元が見えにくい時は自分の「こころ」に灯明(ひ)をともし、道を照らして歩いていくのです。自分自身が光り輝く存在であることに気づいたら、暗闇(くらやみ)でも歩いていきます。不安な世相の時代、自からのこころに「ひ(灯明)」を灯して、歩みましょう。

台掌

令和六年行事(予定)

- 一月一日〜三日 新年の祈禱(早朝)
- 一月三日〜七日 ぎふ七福神お開帳
- 一月二十一日 大般若祈禱会
- 二月四日 涅槃会・婦人部会
- 三月三日 十三参り
- 三月十七日〜二十三日 春彼岸
- 三月二十四日 しだれ桜まつり
- 四月八日 花まつり(降誕会)
- 四月二十一日 弘法大師祥当接待
- 六月九日 奉仕作業
- 七月二十八日 子ども禅の集い
- 八月七日 山門施食会
- 八月十三日〜十五日 お盆
- 八月二十四日 地藏盆
- 九月十九日〜二十五日 秋彼岸
- 十月五日(第一土曜) 開山忌・先祖供養
- 十一月二十三日 七福神布袋尊大祭
- 十二月八日 成道会
- 十二月三十一日 除夜の鐘
- お経の会 第一日曜日 午後一時〜
- ヨガの会 第二土曜日 午前八時〜
- 坐禅の会 第二日曜日 午前八時〜
- 写経の会 第四土曜日 午前十時〜



欧州空手研修の一行坐禅体験(10月)



チャンネル CCN 録画風景(11月)



久し振りの本山拝登(12月)

お寺の宝物

「しだれ桜」と

「なぎ」の木

お寺には色々な宝物があります。宝物と言っても有名寺院の書画ばかりでなく、村の鎮守の森なども大切な宝ものです。

今回は林陽寺の宝物を二つ紹介しましょう。

一つは、樹齢二百年近い「シダレサクラ」二つ目は樹齢百年を超える「神の木」と言われる「ナギ」です。



「シダレサクラ」は、寺の境内の真上に、門を覆うようにそびえています。寺も少し高い所にありますので、サクラも下から見上げるような場所にあります。

平成十年に「岐阜市の美観風致を維持するための保存に関する規則」に基づき「保存樹に指定」されました。

このサクラは「エドヒガン」といわれ、寿命が長く、巨木になる特徴があるとされています。ソメイヨシノよりも一足早く咲きます。各地の一本ザクラと言われているサクラは、このサクラが多いです。

岐阜市では一番早く咲く桜のよう、春のお彼岸頃から多くの方々に親しんでいたられています。インスタ等で沢山投稿されています。最近では、ドローンでの撮影の許可を求める方も多くなりました。

投稿を一つを紹介しましょう。

「林陽寺は、三月中旬に、とつても立派なしだれ桜が咲きますよ！ 遠くからでも存在感のあ

るしだれ桜は間近で見るとさらに圧倒されます。とつても素敵なしだれ桜を是非行ってみてください！と書かれていました。毎年、桜の咲く頃にマルシェなど行って皆さんに楽しんでいただいています。

もう一本紹介しましょう。神の木といわれる 榎（ナギ）の木です。林陽寺の中庭に幹周り百センチ程の大木があります。「ナギ」の木という名前を知ったのは数年前のことです。以前から名称不明で多くの方に尋ねました。が分かりませんでした。

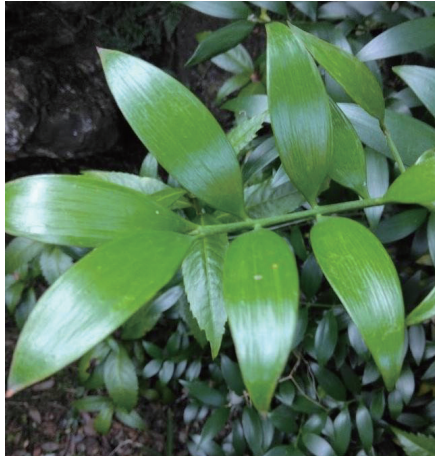


あるとき仕事で和歌山県の南紀州に出張した際、「熊野速玉大社」にお参りしました。その時実生から出たの「ナギ」の木の幼木が目にとまりました。尋ねてみるとこの神社の御神木が「榎」の木であることを知り、平重盛が植えたといわれる樹齢千年の天然記念物である「榎」の巨木に巡り合いました。所謂、熊野信仰の象徴たる大木に巡り会いました。

縁結び、夫婦円満、厄除け、商売繁盛、交通安全、福運招来等、霊験新たな御神木であることを知りました。その後、いろいろ調べてみますと、源頼朝が、「ナギ」の樹の下で北条政子にプロポーズしたことや織田信長が好んで舞ったと伝えられる能に『敦盛』がありますが、そのとき「ナギの小枝」持って舞台上に立つたと伝えられています。また、熊野詣では、笠などにかざして、道中の安全を願ったと記されています。

「榎」の木は、中国等の南方に自生し、黒潮に乗っての南紀等の温

暖な地に定着した常緑の高木。熊野信仰の広がりと共に東京辺りまで伝播したようです。林陽寺辺りも冬が寒いのによく育つたものです。葉に特徴があり縦には簡単に裂くことができますが、横には枯れ葉であつてもなかなかちぎることができません。その丈夫さにあやかつて男女の縁が切れないようにと女性が葉を鏡の裏に入れる習俗があつたそうです。



裏山にある「日子坐王」の墓にお参りにみえた方が、「ナギ」の木を見られて「神の木」だと絶賛されたのには驚きました。秋に実が庭に落ちます。その実を大切に育てております。

葉を丹羽由美さんに特殊加工していただいて「お守り」にしてもらっています。人気があります。

檀信徒本山研修に参加して

大島典子

十月二十五日から二十六日にて大本山永平寺一日研修と大乗寺、金沢の旅に参加しました。

コロナが落ち着き始め、四年振りの本山研修は約二百名の参加者がありました。

永平寺に入り、始めに大講堂にて開校式が行われ、私は初めての参加でしたので輪袈裟を頂きま

した。周りの方を見てみると輪袈裟に何本も銀の線を付けてみえる方、金や銀の輪袈裟をかけて見える方がありました。

それは、参加の回数を表すものだそうです。因みに金の輪袈裟の方は、三十回研修に参加されているそうです。初めての私は、目が丸くなるばかりでした。

その後、坐禅・中食・法話と研修は進みます。祖山副監院西田正法老師が法話の中で詩を紹介されました。

星野富弘さんの詩

鏡に映る顔を見ながら

思った

もう

悪口を言うのは

やめよう

私の口から出た言葉

一番近くで聞くのは

私の耳だから

私は、なるほど、そうだ。と改めて気づかされました。毎日の生活の中で愚痴などがつい出る私ですが、このお話を聞いて自分

を見つめ直す時間を頂きとても良い機会になりました。

二日目、金沢の大乗寺にて三大尊御霊骨にお焼香させて頂き貴重な体験が出来ました。

二日間通して天候に恵まれ、金沢兼六園の見学も出来、お土産とお土産話が沢山でき実りのある研修となりました。

お世話になりました御住職の皆様方に感謝申し上げます。

とらわれない心

副住職

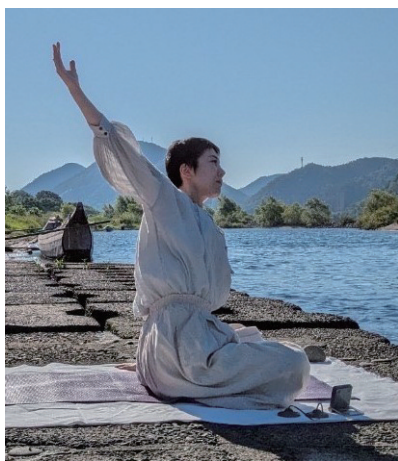
私は普段ヨガ教室をお寺で開かせてもらっているのですが、先日ヨガに参加された方から翌日にメールがありました。

「今朝は心地よい痛みを感じています。変な話ですが、全身のさやかな痛みが内体を感じさせてくれます。ああ、私なんだ。と。そのくらい最近、自分を忘れていたんだなあ。今朝は痛みさえ、有難く感じています。」と。

私はこの感想をいただいでから、ずっと彼女の言葉が胸の内でも響いています。

物事には表と裏、外側と内側といった二面性がある中で、仕事でも生活でも人間関係でも普段は外側ばかりに目が行きやすいのですが、一旦止まって身体を調べて息を調べてから、静かな心で内側に向けてみると、今までは見つけられなかった事に気づいたりします。

どちらかに偏らず、平等の目でもって自らを振り返った彼女の言葉に、私自身も軽やかな気持ちにさせてもらえました。痛みさえも有難い・・・本当ですね。私たち今日も身体に生かしてもらっていますね！



第13回 ぎふ七福神 布袋尊大祭無事円成



十一月二十三日、小春日和の暖かいひよりに恵まれた有難い大祭日でした。コロナ禍により三年振りに催事も行うことが出来ました。二時打ち出しにて、大般若祈祷会に続き、山田 准ご夫妻による「おとこ山」の紙芝居。終わって「お菓子まき」。お参りいただきました皆様、ありがとうございます。お正月三日〜七日まで、例年通り、夢巡りお開帳を行います。七福神の御利益にあずかってください。よろしくお願いたします。

地獄で仏に会いました

お庫裏

十月十八日の夕方、JR岐阜駅南のコインパーキングに停めてあった車のエンジンをかけようとしたのですが、かかりません。バッテリーがあがってしまったのです。業者さんに来てもらい充電してもらえたので一安心。

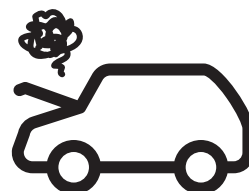
ところが、走り出して駅西の三車線の道路を走っていたら赤信号になり停止。またエンストです。横断歩道の手前、しかも三車線の中央。又もや業者さんに連絡し後続車に頭を下げ左右の車に事情を伝えつつも途方に暮れていました。

四回目の信号が変わったその時です。二人の外国人の男女が近づいてきました。男性が「押すから車の運転はできるか。」と、ジェスチャーで聞いてきました。「できる。」と答えると女性が左折側の車を制止して、その間に男性に押されて車を歩道に乗り上げ

ることができ、事なきを得ました。

二人は、スリランカから来て、日本語を勉強しているご夫婦でした。片言の日本語の彼らと話していると、「とても困っているようだったから。」と、言われました。

私が外国でもしもこのような出来事に遭遇したら同じように出来るだろうかと考え、スリランカ人の若いご夫婦に深く感謝した秋の夕方の出来事でした。



第17回 しだれ桜まつり 令和6年3月24日(日)



十三参りについては、お寺にお尋ねください。